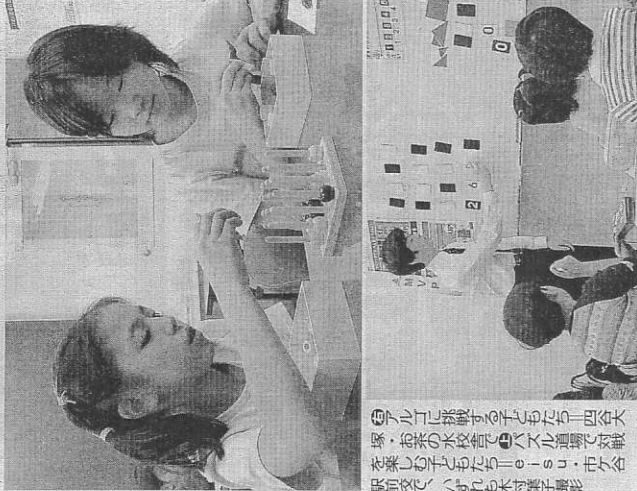


# くらしナビ Kids

子ども [kurashi@mbx.mainichi.co.jp](mailto:kurashi@mbx.mainichi.co.jp)



①小学1年生の子どもたちが、四谷大塚・お茶の水校舎の「アルゴクラウ」のイベントで対戦する様子。写真：伊藤真子撮影

コートはテンボールで、12人の子どもたちはじゃんけんを取り入れた数独ゲームや、伏せたカードの数字

をひらきながら、四谷大塚・お茶の水校舎(東京都千代田区)にやってきました。連日開催されるアルゴクラウに参加する小学1、2年生だ。

立体や数などのパズルを使って子どもの思考力を磨くという取り組みが、学習塾ならまだ多い。これまで大人向けのパズル本を手掛けた出版社も子ども向けに参入。パズルで養われる「思考力」とは、不利な手

から年長、小学生を対象にアルゴクラウを導入した。アルゴクラウのシステムを開発販売する中

「理論的」「直感的」「鍛錬へ塾が導入」

をひらきながら推理する「アルゴクラウ」などを進める。「できた」「あー、わかった。解けた瞬間、真剣な表情が笑顔に変わる。90分間、あこびをしたり立ち歩いたりする子は、一人もいない。

「算数俊明さん(5)は、子ども特有の直感力を伸ばしつつ、理論的思考力が鍛えられる」と説明する。

「子どもも用を出版」

「パズル道場」

夕陽迫る午後4時、学習塾「eisu」市ヶ谷駅前校(東京都新宿区)の「パズル道場」には、年長から小学までの9人が姿を見せた。「勝った勝った」「それなし」

「パズル道場の仕組みを開発した山竹 慧徳さん(8)は、「大人になってからの問題解決力や危機回避力には、仮説をたて問題を解くパズルで鍛えられる」と語る。

書店に並ぶ子ども向けのパズル本。東京都新宿区の配伊国際書店新宿本店で、佐々木順一撮影

「パズルをすればすぐに算数などの成績が良くなるものではない」と関係者は口をそろえる。大切なのは大人が得意な結果を求めず、口出しをしないこと。解けなくても悩むことが大切で、遊びの中で考える習慣が身につく」という。

「パズル道場の仕組みを開発した山竹 慧徳さん(8)は、「大人になってからの問題解決力や危機回避力には、仮説をたて問題を解くパズルで鍛えられる」と語る。

「パズル道場の仕組みを開発した山竹 慧徳さん(8)は、「大人になってからの問題解決力や危機回避力には、仮説をたて問題を解くパズルで鍛えられる」と語る。

## パズルで養う思考力

MAINICHI

# 新 聞 毎 日

11月30日(日)  
2008年(平成20年)